

KAS

Cotton こっとな Up あっぷ

Vol. 100



網戸の貼り替えに挑戦中！！
わたげを綺麗にしちゃいます☆

目次

- ・「W・D・S・N 23 (Watage Daily Support News)」
Aさんのケアホーム利用への支援 ～あたらしい生活をはじめよう！～ 《2～5ページ》
- ・「お～い！ごとく～ん！」 《5ページ》
- ・後援会のご案内 《6ページ》
- ・ボランティアさん☆大募集中！！ 《6ページ》
- ・編集後記（編集部） 《6ページ》

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会
代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲910-1コープ野村6-109
(毎月1回15日発行) 購読料1部 50円

Aさんのケアホーム利用への支援～あたらしい生活をはじめよう！～

Aさんが、安心して、家庭からこっとなはうす（ケアホーム）の利用を開始できるように行った支援について、報告させていただきます。Aさんは28歳の男性です。現在、生活介護事業所のふあずで日中活動をしています。ご家族からの希望もあり、入居の準備を始めることになりました。

家庭訪問や面談などを行い、今までの生活の流れ、配慮点、課題性を感じることをご家族にお伺いしました。そして、既に生活している3名の利用者さんたちの生活リズムにも十分配慮しながら、下記の4点を重視して、ご本人がこっとなはうすでの生活をはじめするための支援を考えていきました。

大事にしたこと

- ・なぜ、こっとなはうすで生活するの？
- ・伝達の方法。
- ・今までの生活の流れを重視する。
- ・家庭やふあずで身に付けたスキルを活かす。



★なぜ、こっとなはうすを利用するの？

ご家族との話し合いを進める中で、特に大切に考えたことは、ご本人に、こっとなはうすを利用することをどのように伝え、納得して利用していただくかということです。ご家族には「これができたらいいな」「こんなふうに成長してもらいたい」という思いはあるにせよ（これは障害の有無に関係なくどの家庭にもある事だと思いますが）、家庭では特別困っていることはなく、ご本人も自宅で楽しく生活されているとのことでした。

ご家族の理解もある良い環境下で、なぜ、こっとなはうすを利用するのでしょうか。ご家族の思いには、将来を見据え、親と離れた生活を経験することで、ご本人の可能性と生活の幅を広げる良い機会であるということが背景にあります。支援者側としてもその機会を提供することはとても重要だと感じています。しかし、ご本人には、そのままの言葉で伝えても、想像することができないので、納得することは難しいであろうと考えました。その結果、「Aさんは28歳の大人の男性です。お父さんお母さんと離れて暮らす練習をしましょう」と言葉ではシンプルに伝えることにしました。

★スケジュール形態の変更と組み立て

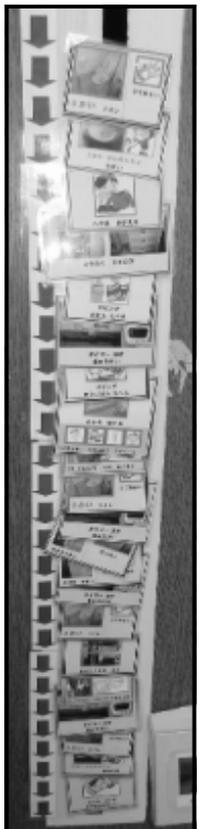
次に、ご本人が、こっとなはうすでどのような暮らしをするのか、考えていきました。その際、家庭での流れを大切にし、住んでいる場所が変わるだけというイメージになるよう、留意しました。家庭では、スケジュールを用いずに決まった日課で過ごしていますが、こっとなはうすでの新しい生活を、見通しを持って安心して過ごすことができるよう、スケジュールを導入しました。

ふあずでは、スケジュールのカードを、活動の順に一本のフックに通し、上から順番に取っていく形態であるのに対し、こっとなはうすでは、カードを上から順番にボードに

貼って示し、一覧出来るようにして伝達しました。それは、日中活動と生活場面で大きな違いを感じたからです。その違いというのは、「生活場面は繰り返しが少ない」ということです。ふあずでの日中活動では受注作業が中心となり、休憩等を挟んで仕事を繰り返し行う機会が多いのです。対して生活場面では食事、歯磨き、入浴など、同じ活動を繰り返すことは殆どありません。Aさんは、ふあずで活動中、フックにかけたカードをめくり、活動予定を確認することがあります。新しい環境下で生活を始めることに加え、生活場面ではやるべきことがたくさんあるので、カードをめくって確認することも多くなるかもしれないとイメージしました。そのため、夕方はこっとなはうすに到着してから就寝まで、翌日は起床からこっとなはうすを出発するまでのスケジュールが、一目でわかるような形が良いのではないかと考えたのです。

もちろん、新しい形態のスケジュールの使用が難しいようであれば、ふあずで慣れているスケジュール形態に切り換える準備はしていました。スケジュールの使用目的は、見通しを持って安心して過ごすことだからです。ふあずにおいて、スケジュールをよりどころに、自ら行動するという経験を積んできているからこそ、新しい形のスケジュールにも挑戦できる面が多分にあったと思います。

スケジュールの形態を決めた上で、次に、生活の中でやるべきことの手順を1つひとつ決めていきました。例えば、洗濯機の使用であれば、職員がご本人になりきって活動し、どの部分がわかりにくいのか、気になりそうな点はどこか、その点についてどう視覚的にわかりやすくすべきかなど、何度も修正を繰り返しました。ご家族とも随時相談させて頂きながら、手順を決めていきました。

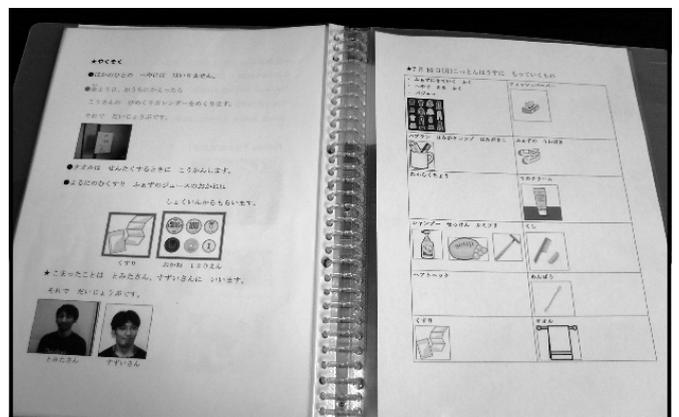


スケジュール

★伝達

こっとなはうすを利用する理由、生活の流れを固めた段階で、次に行うのは、ご本人への伝達です。なぜ、こっとなはうすを利用するのか、どのように暮らすのかをご本人に分かりやすく工夫して説明し、納得していただいた上で、新しい生活への不安を少なくして、利用を開始してもらおうことが何よりも大切になります。

ふあずの利用を開始した時と同様、こっとなはうすのプロモーションビデオを作成しました。職員がご本人の代わりとなり、生活の流れに沿って活動し、行う場所と活動内容を説明していくビデオを見てもらい、暮らしのイメージを



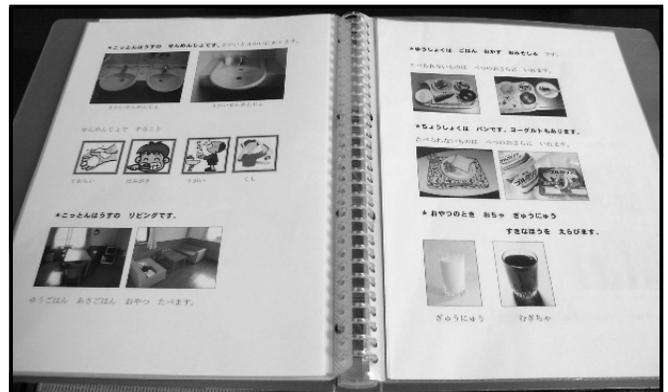
パンフレット 持ち物表など



買い物に行く日付、お店、買う内容を確認するリスト

をつかんでもらうためです。それと併せて、写真付きのパンフレットもご本人に見ていただくことにしました。パンフレットではこっとなはうすを利用する理由や持ち物、ご本人が好きな洗濯をこっとなはうすでも行うことなどを明記しました。また、ご本人にとって楽しみになるであろう活動を用意することも重要と考えました。こっとなはうすでするおやつのお買い物に、近所にあるスーパーやコンビニに、職員と一緒に買いに行くことも盛り込みました。そして、ご本人はカレンダーや写真の理解が得意である為、写真付きの週間カレンダーを作成し、いつ、こっとなはうすに来て、いつ自宅に帰るのかを明確に伝わるようにしました。

そして、職員がご自宅に伺い、ご本人にビデオとパンフレットを見てもらいました。ご家族の協力もあり、30分ほどのビデオと一緒に観ることが出来、また、週間カレンダーや持ち物、こっとなはうすでどう生活するかというパンフレットについてもじっと注目する様子がありました。カレンダーを見て「9の日」「こっとなはうす」というリアクションもあり、本人がこっとなはうすを利用することを納得してくれ、また、週間カレンダーを使うことで入居日に関して理解を示してくれたことが伺えました。



パンフレット こっとなはうすの紹介

実はこの日、体調を崩してふあずを休んでいる状態でした。後日通院し、なんと肺炎であるとの診断を受け、予定していた入居日を延期せざるを得なくなりました。そこで、新しい週間カレンダーを持って再度ご自宅に伺いました。ご本人の前で週間カレンダーを差し替え、新たな入居日をお伝えしました。週間カレンダーをじっと見て、新しい入居日を言う様子があり、改めて、本人が理解しやすい方法で伝えることで、大きな変更も受け入れてくれるということを感じました。

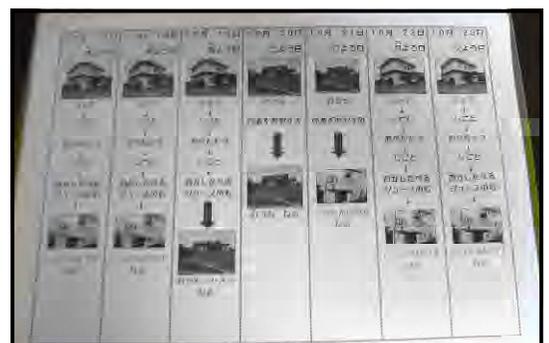
ご本人への伝達を終え、いよいよ入居日が迫ってきました。机やベッドなど大きな荷物はご家族が事前に搬入しました。衣類は入居当日に持参し、ご家族と一緒にダンスにしまうことで、主な生活の場が、自宅からこっとなはうすに移ることを、より明確に認識してもらえるようにしました。

そして7月某日、こっとなはうすでの生活が始まりました。

★新しい生活のスタート～不安の軽減

誰しも新しい生活を始めることは不安が伴います。職員は、日課や、スケジュールの使用方法、買い物や洗濯の仕方など、ご本人が不安に感じそうなあらゆる事柄について、事前に説明や伝達の方法を準備し、1つひとつ説明をしながら新しい生活がスタートしました。入居後、ご本人が特に気になっていたのは、1週間の流れと、いつまでこっとなはうすを利用するか、ということでした。写真付きの週間カレンダーを用い、1ヶ月先までの予定を伝えましたが、その先の予定を気にする様子が見られました。そこで、家庭から持参したカレンダーに年末までのこっとなはうすの利用日を全て書き込みました。最初の1週間は頻りに予定の確認がありました。実際に経験していないことなので、ご本人に相当の不安があることを職員は十分に理解し、その不安に寄り添う姿勢で対応を続けました。ご本人が日程の確認を求めた際はその都度、週間カレンダーや、自室のカレンダーで1日ずつ予定の確認をしていきました。

その中で、週末、週明けの予定の確認が特に多く見られていました。ふあずでは月曜から金曜まで仕事をしますが、こっとなはうすは日曜の夕方から金曜の朝までの利用となり、1日のズレがあります。この点が理解、納得のしきれない部分かもしれないと考え、週間予定表の書式を変更しました。当初、こっとなはうすがスタートする日曜から終了する金曜まで作成していた予定表を、火曜日から水曜日までの表記に変え、予定表の中央に週末がくる形にしました。こうすることで、金曜日ふあず



週間カレンダー

で仕事を終えたら自宅に帰り、日曜日にこっとんはうすの生活がスタートする流れがより伝わるのではないかと考えました。利用開始2週目以降、日程の確認は減り、表情も落ち着いている場面が増えていきました。スケジュールを、自分なりの過ごし方に変えたい様子も見受けられるなど、ご本人なりに過ごしやすい生活スタイルにカスタマイズしているような柔軟さも見られるようになってきました。職員は、ご本人の様子を見ながらご本人が使いやすい形に活動の順番を変えたり、カードの表記を変更したりしています。

★最後に

こっとんはうすは、ご本人にとっての「生活の場」です。仕事の疲れを癒すゆっくりした場所です。そのような場所であることを十分認識した上でご本人の良い所を伸ばしていくお手伝いをしたい、そして毎朝、「今日も仕事やるぞ！」と意気込んで仕事に行ってもらえるよう、送り出したいと思っています。

鈴井研二

『お～い、ごとーくーん！！』

わたげ 施設長 後藤博行

「猫は後悔するか」という目次を見て、興味本位で買ってしまった本があります。哲学者、野矢茂樹氏の「語りえるものを語る」という本がそれです。野矢氏は本文で、こう語っています。「猫は後悔しない、いやできない。猫は、そして人間以外の動物は、後悔というものを為しえない」。それは何故かを、私が理解した中で大雑把に説明するところになります。後悔するということは、事実と反する思いを含んでいる。「ああすれば良かった」というのは、「そうはしなかった」事実と反する思いである。では、事実と反する思いをもつには、どうすればいいのか。私たちは現実で起きている事実の世界で生きていると同時に、その周囲に現実化しなかった可能性が広大に広がっていることも理解している。ここでいう可能性というのは、かなり広く取った可能性である。私は現在施設の職員であるが、そうではなかったら、宇宙飛行士になっていたかも知れないということである。現実には、自分でも無理なことは承知だが、可能性としてはあるという捉え方である。その可能性を考えるには、分節化された世界が必要となる。分節化とは、例えば、青いクルマが走っているという事実を、「青い」という性質と「一台のあのクルマ」という対象と「走っている」という動作とに分けて捉えることである。分節化できるからこそ、青ではなく黒いクルマもあり得るとか、走っているではなく、止まっていることもあるなど、可能性を考えることができるようになるのである。この分節化をするためには、言語がなければならないのである。言語とは、話し言葉のみならず、路線図や、飲食店のサンプルも含めて、表現する働きをもったものは全て、言語と解釈する。この分節化して表現するすべを持たないとすると、可能性は開けてこないのである。言語がなくても、物を動かしてみれば、可能性を考えられるのではないかと思う方もいらっしゃるでしょう。机の上に本がある状態から、机の下に本を置いてみたとする。これは、本は机の下にも置けるという可能性があるのではなく、既に起きていることなので、現実なのである。このように、言語をもたない動物は、あるいはもっていても、分節化した言語をもっていない動物は、可能性を開けない、現実を生きるしかない。だから、猫は後悔しないとなるのである。しかしながら、野矢氏も書いているが、猫は「外に出たいよ」ということを、猫語を使って「ニャー、ニャー」と表現するようにも感じるし、飼い主を識別して行動しているようにも見える。だが、猫が、分節化した言葉をもっているとは考えられないので、状況からダイレクトに行動を促されているという捉え方に、野矢氏は立っているのである。実際に数匹の猫を擬人化して暮らしている中で、寂しさを感じながらも、この考え方を受け入れながら暮らしているのだそうです。みなさんは、どう考えますか。浅学な私が、野矢氏の理論を正確にお伝えできたとは思えないので、興味のある方は、本を手にとってみて下さい。

日常の何気ないことを、順序立てて、論理的に分析して考えてみることで、気づかされるものがたくさんあると感じます。私たちの行っている支援は、言語化して説明ができるのでしょうか。利用者の意思決定支援が法律にも謳われました。野矢氏のいうところの言語、「表現する働きをもったもの」を使ったり、体験してもらったりして、利用者の意思決定に資するような支援をどう行うのかということは、今までも、これからも、福祉の世界では問われ続けていくと思います。未熟者ゆえ、後悔を繰り返しながら、これからも研鑽を積みたいたいと思います。

たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、ともに生きる仲間として、地域で生活していくために必要な援助に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員 1口	3,000円
	団体会員 1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474
 郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会



ボランティアさん 募集中

わたげ・ふあず・こっとなはうすで
 自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？
 作業の検品、余暇活動の支援、清掃等
 お手伝いをしていただけられる方がいましたら、ご連絡ください！！

〈連絡先〉

わたげ 電話:046-844-0038 (担当:わち)
 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp
 ふあず 電話:046-888-3961 (担当:しょうじ)
 E-mail: adz13970@ams.odn.ne.jp
 こっとなはうす 電話:046-852-8355 (担当:とみた)
 E-mail: tanpoonosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp



編集後記～編集部～

今号で、こっとなあっぷが記念すべき100号となりました。100号を迎えることが出来たのは、ひとえに読者である皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

さて、調べてみると、今年記念すべき100号を飾った人物がいました。今年ヤンキースに移籍したメジャーリーガーのイチロー選手です。今年7月に大リーグ通算100号目の本塁打を放ちました。イチロー選手の特筆すべき点は彼の流儀にあると思います。彼は、朝起きてから球場に着くまで、いつも同じことをしているそうです。球場に着く時間も同じ、道具の置き場所も同じ、食事も毎日カレーを食べる。毎日同じ行動を繰り返すことで、自然と試合に集中することが出来るそうです。

この話を知った時、私はわたげの利用者の方々の顔がすぐに浮かびました。日々わたげで作業を継続して取り組む。日々繰り返していくことで、さらに技術、スピードが向上する。私にとって、彼らは「わたげのイチロー」です。

竹内

編集	社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷	〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21
	TEL:046-844-0038 / FAX: 046-844-0036	E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp